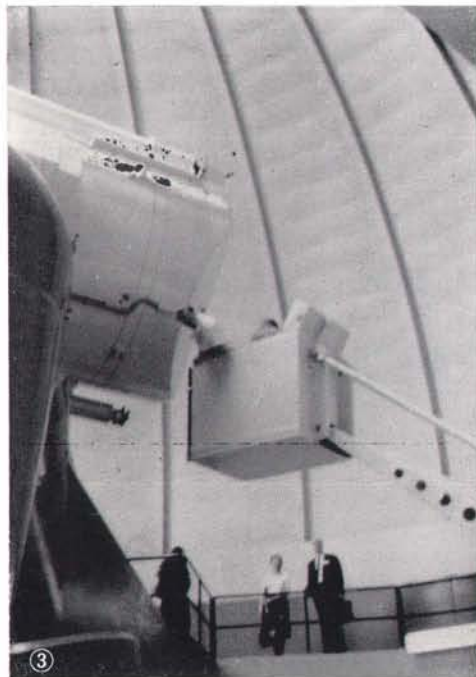
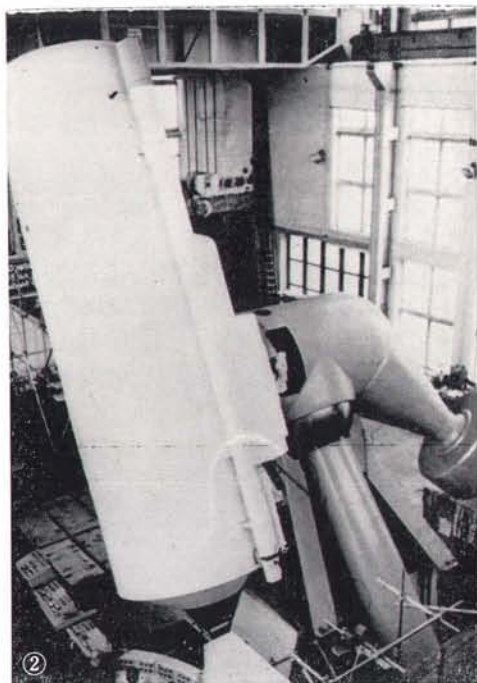


Ondřejov 天文台（チェコスロバキヤ）の新反射望遠鏡

IAU 総会中の 8 月 23 日に落成式が挙行された。東独ツァイス社製。口径 2 m、主焦点距離 9 m、カセグレン焦点距離約 30 m、クーデ焦点距離約 70 m。

1. 直径 20 m のドームの外観。 2. ツァイス工場で組み立てた望遠鏡。極軸が曲げてある。 3. カセグレン焦点用観測台。クレーン式でその基部はドームの中心のまわりに動かせる。

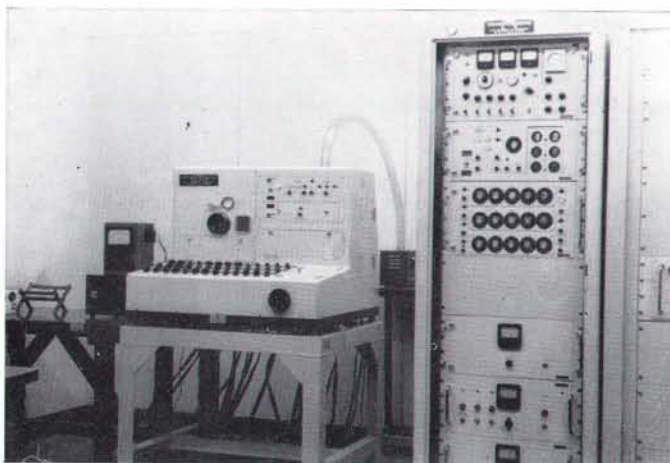


水沢緯度観測所の新実験棟と諸設備



管理棟（研究室）の左側に接続している実験棟の全景。屋上には超長波受信用のループ・アンテナが置かれている。

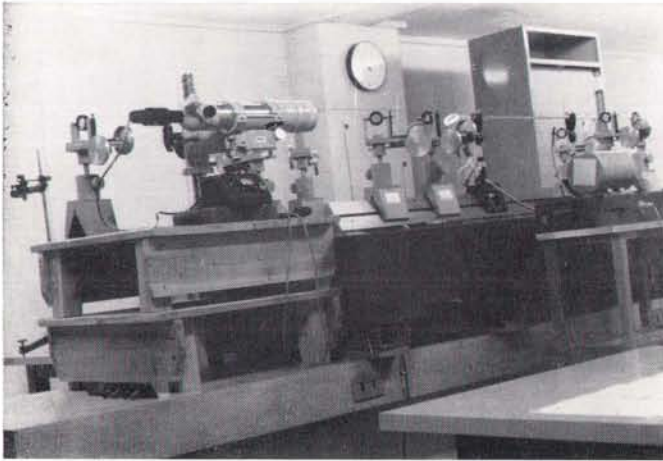
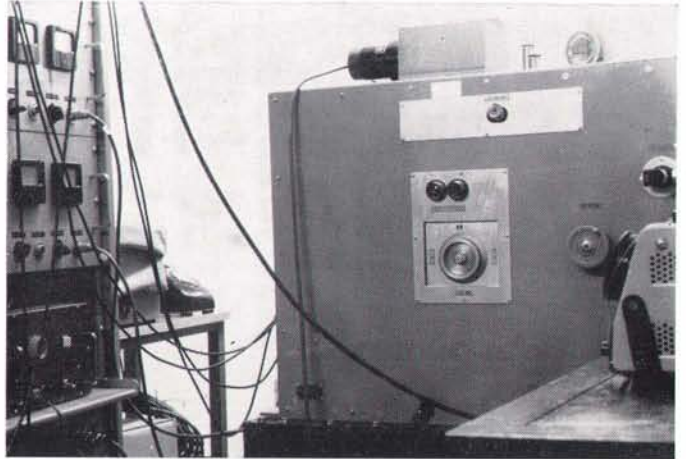
実験棟1階の電子計算機室で、TOSBAC-3400 モデル 30 型電子計算機がこのほど設置された。この計算機の記憶容量は、ほぼ16000 語で、磁気テープは4連ついている。なおカーブ・プロッターも備えている。



実験棟地下室内にある浮遊天頂儀乾板自動測定装置である。この装置は東京天文台の子午環度盛サークル自動読取装置の原理を応用して光電式に乾板上の星像間の距離を測定出来るものである。

ルビム

PZT 乾板自動測定装置。乾板上の星像座標を光干渉計によって測定する。測定結果は電子計算機の入力カードにパンチされるようになっている。



レーザー光を用いて地球自転速度変動を検出しようという目的のもとに、設置されたガスレーザー装置である。

実験棟地下の時計室にあるヒューレット・パッカード社製セシウム原子時計。

